



## CBI 学会 会長就任の挨拶

大鵬薬品工業株式会社

相良 武



この度、片倉晋一前会長の後任として CBI 学会会長を拝命いたしました相良武でございます。会長就任にあたりまして、ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

私は 2017 年より 5 年間、CBI 学会創薬研究会の主査を担当させていただきました。この 5 年間に平成から令和へと年号が変わり、そして今も続くコロナパンデミックを経験することで、まさに先の読めない不確実な時代に急速に移行したことを強く感じます。この間にあらゆる領域でデジタルトランスフォーメーションが一気に加速しました。創薬研究の領域におきましても、基礎から臨床の全てのステージで、デジタル化の検討に留まらず、新たなモダリティ、新たな技術プラットフォームの検討が同時並行で加速する「創薬トランスフォーメーション」の時代を迎えています。

CBI 学会は 1981 年に化学 (Chemistry)、生物学 (Biology)、情報計算学 (Informatics) という 3 つの学問分野に関わる先端的な研究開発の基盤構築をめざして活動を開始いたしましたが、現在では取り扱う研究領域を創薬に関連する幅広い領域に拡大してきています。特に AI、ビッグデータ、ロボットによる自動化の創薬への活用が進む中、計算科学が担う役割、そして計算科学を核として発展してきた CBI 学会の果たす役割はますます大きくなっています。今後はこれまでの CBI 学会の関心領域に加えて、新たな注力領域を設定することで、CBI 学会の価値を高め、発展させていきたいと考えています。

まず、「創薬トランスフォーメーション」によって何を成し遂げるべきかについて議論を深めて参ります。特に、ゲノム解読のコスト低下、ゲノム編集技術の進化、AI/IT などのデジタル技術とバイオテクノロジーが融合することで到来するバイオエコノミー社会 (第 5 次産業革命) における新たな創薬のあり方について議論を深めることが必要です。また、CBI 学会は「創薬エコシステム」の一翼を担い、これを真に定着させていくために、多様な領域で活躍されるみなさまに議論いただく場を継続的に提供していきたいと考えています。これまでは、製薬企業、IT ソリューションプロバイダー企業、アカデミアに所属されるみなさまを中心に議論がなされてきましたが、新たに創薬 /AI ベンチャー企業、また、起業を目指す方やそれを支援する投資家の方々にも自由に議論に参加し、連携いただける機会を作りたいと考えています。これにより CBI 学会が、産官学、専門領域、国内外、世代を超えて幅広い人財がつながり、お互いに学び合うことで成長できる場になると確信しています。特に、これから創薬を担う若手の方の参加を促すことで、サイエンスの対話をより活性化できるような取り組みを進めて参ります。これらを実現することで、日本における創薬の生産性の伸び悩みを打破し、医薬品産業を将来の日本を牽引する産業として成長させる一助にしたいと考えています。

これまで長きにわたり、みなさまに支えていただきました CBI 学会をさらに発展させられますよう、微力ではありますが努力して参ります。不慣れな点が多く、会員のみなさまにはご不便をお掛けすることも多いと思っておりますが、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 4 年 4 月吉日

